

渋沢栄一 研究会：渋沢栄一から始める研究会 25.12.6
『武士道と現代』—江戸に学ぶ日本再生のヒントー
笠谷和比古（著）読後の感想 東條保子

参考文献：

1) 『武士道と現代—江戸に学ぶ日本再生のヒントー』
笠谷和比古著 産経新聞社2002・産経新聞連載より
“押込・諫言・借知・能力主義、日本には武士道モデルがある”

第1部 武士道と現代

赤穂浪士の忠義、忠義と自立、葉隠の真意、
あるべき君臣関係（諫言・押込・借知、リストラ）
藩の組織と武士道
18世紀日本の組織改革
(日本型組織の源流・終身雇用・年功序列)
伝統と現代
グローバリゼーションとは
新しい日本社会を求めて

第2部 武士道モデルの基礎知識

徳川時代の武士と大名家・忠義と押込
・18世紀の組織改革
(吉宗の享保の改革・上杉鷹山の米沢藩の改革・・)

2) 『武士道と日本型能力主義』
笠谷和比古著 新潮選書2005 NHK教育テレビ
“江戸時代の武家社会に日本の「会社」のルーツを探る”
『ボトムアップ型』組織の原点は、武士道にあった！

3) 『武士道の精神史』笠谷和比古著 ちくま書房2017
“武士道の精神は日本人の生き方の中に連綿と受け継がれて
いるのです”

4) 『論語と算盤』渋沢栄一著 守屋淳訳

5) 『武士道』 新渡戸稲造著 岬龍一郎訳
義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠義

『武士道と現代』—江戸に学ぶ日本再生のヒントー
笠谷和比古（著）2002年 産経新聞連載から

テーマ：失われた10年頃、事なきから脱却し、
活力ある日本を取り戻すには

内容：

江戸時代の藩の組織、意思決定や人材育成の仕組みは武士道精神が貫く、
日本型能力主義に基づく、組織の源流でありモデルである。

- ・「和して同せず（君子和して同せず、小人同じて和せず）」
- ・「義を見てせざるは勇なきなり」
- ・「知行合一」「良知」陽明学 佐藤一斎
- ・赤穂浪士にみる忠義は個人の自立が前提
- ・吉宗の能力主義の採用、（能力主義的な）年功序列につながる
- ・明治の官僚組織は江戸時代の組織+西洋の官僚組織
- ・1930頃、労使紛争・熟練工調達・OJT対応のため、終身雇用が芽生え
- ・戦後の高度成長期、人材確保・育成は急務、日本型経営モデルへ

現代への笠谷氏の提言：

- ・日本経済の衰退は日本型経営システムの解体が原因。
- ・武士の忠誠心を基本として、個人の自立とOJTを基礎とした
年功序列・終身雇用制は優れた組織形態である。
- ・グローバル化で、西洋の組織形態をただ受入れるのでなく、
日本の武士道モデルを世界に提案すべき。

《感想・私見》

- ・2002の状況は2025年の現代に通じる。
- ・日本のTop企業は日本型組織モデルを保持し、ジョブ型を一部採用
(日経2025.11.17朝刊「ジョブ型はやさしくない」)
- ・米のAI先端大企業ではリストラの傍ら、コア人材は社内育成

→今後とも日本型組織は時代に合わせて形を変えながら生き残っていく。
その魂とも言える武士道精神は、人的能力・組織文化を育てる力として、
経済も、政治も支えていく、世界に発信すべきものと考える。

注) 企業内組合については取り立て触れてないので割愛。